

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「数字で見る特別支援教育」

1 校種ごとの学校数

	2007年 (*2006年)	2024年	増減
小学校	22,878校*	18,822校	↓
中学校	10,992校*	9,882校	↓
高等学校	5,313校	4,774校	↓
特別支援学校	1,013校	1,191校	↑



- ・小・中学校及び高等学校数は減少傾向にあるが、特別支援学校は少ないながらも、一貫して増加傾向にある。

2 特別支援学校等の児童生徒の増加状況

	2013年度	2023年度	増減
義務教育人口	1,030万人	941万人	↓ 約1割減少
特別支援教育人口	32,0万人	64,0万人	↑ 倍増
特別支援学校	6,7万人	8,5万人	↑ 1.3倍
特別支援学級	17,5万人	37,3万人	↑ 2.1倍
通級による指導	7,8万人	18,2万人	↑ 2.3倍

- ・義務教育人口が約1割減少している状況下で、特別支援教育に関わる多様な学びの場を利用する子どもの数は増加している。特に通級の増加が顕著である。

3 特別支援学校の児童生徒数・在籍数（2023年度）

	知的障害	肢体不自由	病弱・身体障害	視覚障害	聴覚障害	計
学校数	823校	351校	156校	82校	120校	1,532校
学級数	33,168級	12,003級	7,683級	2,068級	2,772級	57,694級
在籍者数	141,063人	30,161人	19,339人	4,696人	7,457人	202,716人

- ・特別支援学校では、知的障害特別支援学校が全体の70%弱に及んでいる。

4 特別支援学級の児童生徒数・在籍数（2023年度）

	知的障害	肢体不自由	病弱・身体障害	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	33,206級	3,146級	2,841級	532級	1,354級	649級	37,236級	78,964級
在籍者数	164,036人	4,419人	4,200人	592人	1,837人	1,209人	196,502人	372,795人

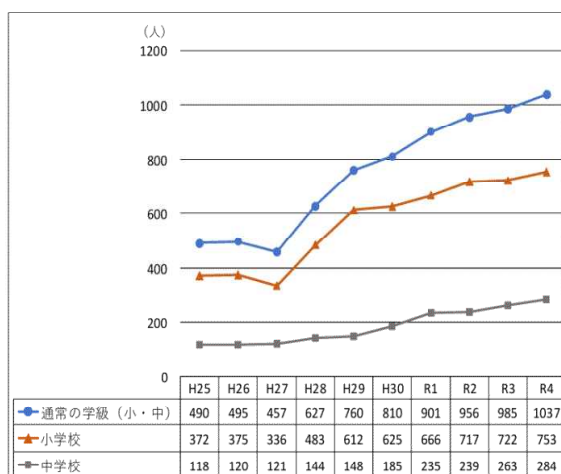
- ・特別支援学級では、自閉症・情緒障害学級が約52%が最も多く、続いて知的障害学級が約44%となっている。

文部科学省が2022年に公表した「学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合」は、8.8%（高等学校は2.2%）であった。2002年は6.3%、2012年は6.5%であり、調査をするたびに増加している。特別支援教育の対象者が増えた要因としては、平成19年度にこれまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害や特別な支援を必要とする子どもが含まれたこと、教員や保護者の気になる子どもへの気付きが増えたこと、家庭・養育環境の変化に伴い愛着障害や二次障害の子どもが増えたことが考えられる。

5 秋田県の幼児児童生徒数等の推移（第四次秋田県特別支援教育総合整備計画より）

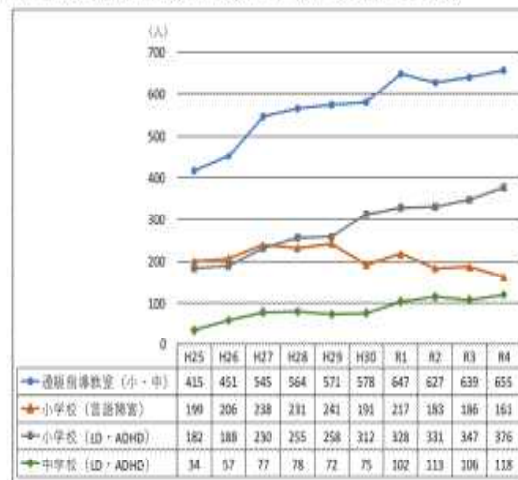
1 通常の学級における障害の診断のある児童生徒数の推移（小・中学校）

通常の学級全体の障害の診断のある児童生徒数と
校種別の障害の診断のある児童生徒数



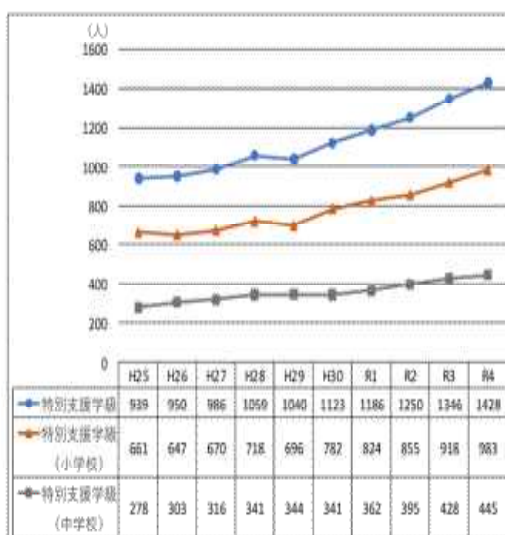
2 通級指導教室を利用する児童生徒数と通級指導教室数の推移（小・中学校）

（1）通級指導教室全体の児童生徒数と校種別・障害別児童生徒数



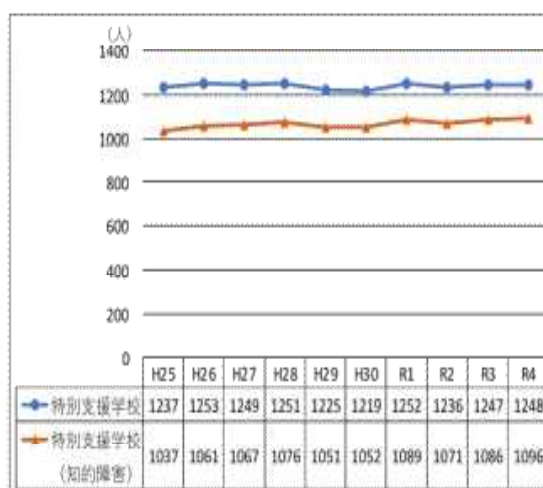
3 特別支援学級に在籍する児童生徒数の推移

（1）特別支援学級全体の児童生徒数と校種別児童生徒数



4 特別支援学校に在籍する幼児児童生徒数の推移

（1）特別支援学校全体の幼児児童生徒数と特別支援学校（知的障害）の児童生徒数



秋田県では、特別支援学校に在籍する子どもは横ばいであるが、特別支援学級に在籍する子どもや通級を利用する子どもは軒並み増加している。全国の傾向と同じように、通級の増加が顕著であり、自校通級・他校通級だけでなく、巡回による通級（移動通級指導教室）の充実や「特別支援教室」の拡充が求められる。

特別支援教育の制度の拡充と理解の浸透、周囲の気付きや愛着形成が不十分な子どもの増加等に伴い、特別な支援を必要とする子どもが増えることが予想される。校（園）内支援体制を強化し、特別支援教育を学校（園）の真ん中に位置付けて推進してほしい。



とれたて直送便



「相手を思う時間が、思いやりの心を育てる」

ある小学校の特別支援学級の教室に、前担任の手紙が掲示されていました。目の前にいない人を想像して手紙を書くことは、それを読む相手の笑顔を見たいと思うことであり、優しさです。手紙を書くのは時間がかかりますが、それだけ相手を思いやる時間が増えることになります。しかも、前担任から返事が届いたことで、更に子どもたちの優しさが育まれたことと思います。相手を意識した活動や役割を通して、思いやりの心を育てましょう。